



## 賛助会員募集

### 参加方法

参加用紙に必要事項を  
ご記載ください  
振込用紙をお渡し致します

### 対象者

本団体の運営活動に対して  
ご理解とご支援を  
いただける個人および団体

### 会 費

3,000円／年  
(5月引き落とし)

### 学生会員

会費は徴収しませんが、団体活動運営に係る実務を一部担います

### 一般会員

本団体運営に係る実務を担います

### 賛助会員

本団体運営活動に対するご理解、ご支援、一部協力を頂ける個人及び団体



### 構成メンバー



代表理事  
菅原 知之  
医療法人  
CLSすがはら



理事  
坂口 明夫  
社会福祉法人  
甘木山学園



理事  
高口 恵美  
西南女学院大学 非常勤講師  
福岡県教育委員会



アドバイザー  
坂西 信平  
坂西医院  
内科・小児科



アドバイザー  
坂西 雄太  
坂西医院  
内科・小児科



アドバイザー  
道園 紳行  
元中学校校長



アドバイザー  
豊田 庄吾  
元隠岐園  
学習センター長

### 2021年度 収支報告

#### 収入の部

助成金収入	¥7,702,650
(九州ろうきん、Fコープ、大牟田市、SINKA、DOCOMO)	
寄付金収入	¥24,000
雑 収 入	¥251,710
合計	¥7,978,360

#### 支出の部

人件費	¥3,140,800
事業運営費	¥2,558,110
事業委託費	¥1,390,382
合計	¥7,089,292

子どもへ橋をかけるプロジェクト

# OMUTA BRIDGE

<https://www.omutabridge.org/>

|お問合せ|

OMUTA BRIDGE 事務局

〒836-0036 福岡県大牟田市小川町30番地1  
E-mail:[info@omutabridge.org](mailto:info@omutabridge.org)

|協力団体|

子ども家庭支援センター あまぎやま

詳しくはコチラ



ANNUAL  
REPORT  
2021

# OMUTA BRIDGE



# コロナの下で どんな橋渡しが できただろう？

「あれ?まだ法人化して1年経っていない!?」

令和3年4月に法人化した私たちですが、冒頭の言葉のように本年度を一生懸命走り切ることができました。私たちらしく「走りながら考える」ということで、様々な事業を取り組みながら、みんなで作り上げた1年となりました。

本年度は、新たに「ジュニアシティメーカー」という事業に取り組みました。事業内容は本論をご参照いただければと思いますが、この事業においても「対話」が基盤としてあり続けました。子ども同士、大人同士、子どもと大人—。それぞれが様々に想いを交換してきましたが、それは一見簡単なようで難しい道のりでもありました。幾度となく「この関わりは本当に子どもたちの為なのか?」「大人の都合になっていないか?」「対話ができるいるだろうか」と、侃侃諤諤な議論を繰り返しました。

やっているときは不安なことばかりでしたが、終わりが近づくにつれて子どもたちがどんどん変化していく様子を見ながら「迷いながらだったけれども、少しだけ彼らの力になれたのかもしれない」と思うことができました。こうした変化は、私たち大人側にもありました。たくさんの対話、子どもたちとの協働の中から、大人たち自身も共に成長し合う仲間となっていました。

正しい対話というものがあるわけでもなければ、言葉を交わし合う場面だけが対話でもありません。対話とはたくさんの関係性の中に育まれていくものであり、みんなで作り上げていくものです。大人だけで作り上げるものではないですが、大人と一緒に作り上げていける対話もあります。大切なことは「子どもたち一人一人の想いを大事にし、彼らの力を信じる」ということだと思います。この場に関わるみんなが同じ価値観を共有できれば、自ずと対話は作り上げられていくのだと信じています。

この報告書が多くの方の目に触れることで、少しでも私たちの大事にしていることが伝わり、そしていろんな人たちの日々のちょっとした変化に繋がったら幸いです。

子どもたちを支援する人のプラットホーム

## なないろりぼん

子どもたちを取り巻く様々な社会環境課題を共有し、一人一人が自分に何ができるかを考える場所です。領域を超えて繋がり、知恵や工夫をみんなで出し合うことを大切にしており、「子どもたちを地域で育てる」そんなまちを目指します。



豊田  
庄吾  
さん  
なないろりぼん

### なないろりぼん学習会

本年度はコロナ禍においてオンラインを用いた学習会を模索してきました。オンラインになっても参加者と一緒に考える、そうした姿勢は変えずに対話を中心とした会を実施することができました。



子どもたちが安心して過ごせる居場所作り

# オンライン寺子屋

学校や家庭とは違う空間で、ゆっくり誰かとお話ししたり、新しい好きや楽しいに出えたり、自分のペースで勉強したり…。誰もが立ち寄れる安心安全な場所です。寺子屋が開催されている時間は、大学生や大人が一緒に過ごしながら、関係性に縛られず過ごせる居場所を作りあげています。



寺子屋  
専門職サポート  
水摩  
愛  
さん

Ai  
Mizuma

私が取り組んだ工夫としては、大学生サポーターと一緒に子どもの関係を見守ることと、専門職として「」という事を気負いすぎないことです。

回数を重ねていく中で大學生と一緒に信頼関係を築き、好きなこと楽しかったこと・不安なことなどを共有しているのを見て、私自身が「一人の大人として」向き合っていけばよいと感じました。本人が不安を発信した際や何か話をしたいときは、こちらから本人のタイミングでも話していくよということを事前に発信しています。また、話をしてくれた際は、「話してくれてありがとうございます」と受け止めるようにしています。

私は活動の中で居場所を強要しないこと、子供たちが作る場所であることを意識して取り組みました。参加したいという気持ちが、参加しないといけないに変わってしまうと子どもにうつて居心地のいい寺子屋にはならないと思うので、着たい時だけ気軽に来れる空間にしようと心がけています。また、会話中は

岩田 格嗣  
寺子屋 大学生サポーター  
Sugushi  
Iwata

毎週 月・木 (19:00~20:30) ※祝日を除く

子どもたち自身の生活力を高めるワークショップ

# PREIS (ぷれいす)

自分自身を知り上手に付き合うことや、社会生活を送る上で必要な経験、誰かに相談する力を高めることを目的としたワークショップを取り入れながら、安心して自分の思いと向き合い話すことが出来る居場所を、子どもたちとともに作っています。参加している子どもたちの年齢やテーマにあったプログラムを実施しています。



上野  
ぶれいす  
晴音  
はるね  
さん

PREISの活動において印象的だったのは、動物園に行った際に普段は冷静であり感情を表に出さない参加メンバーが、笑顔を多く見せてとても楽しそうにしていました。好きな動物と触れ合うことで表情が豊かなだけでなく、口数も増え、終始活気にしていたことです。好きな動物と一緒にいることで、他のメンバーにも良い影響を与え、雰囲気がいつもより明るくなりました。

PREISの活動を通して、より周囲に目を向けるようになつたと感じています。参加メンバーとの関わりを意識する中で、常にメンバーの表情や動きを観察し、状況に応じた関わり方をするとの難しさと大切さを実感しました。また、自分が誰であっても、相手の趣味や嗜好を知る努力をして、一人一人に応じた向き合い方を探すようになりました。

自身の変化

- 2021年4月10日(土)  
たこ焼き作り、手帳で時間管理
- 5月16日(日)  
クレープ作り、新しい環境への適応(SST)
- 6月26日(土)  
リフレス大牟田にてピクニック、こんなときこんな気持ちゲーム
- 7月10日(土)  
バフェ作り、自己他者理解ワーク
- 8月9日(月)  
ランチミーティング、手帳で一日マネジメント、ヨガ
- 9月18日(土)  
オンラインミーティング、ストレスチェックとマネジメント
- 10月24日(日)  
大牟田動物園、お絵描きワークショップで対話
- 11月27日(土)  
公共交通機関の利用、カフェで心のワークショップ
- 12月28日(火)  
一年を振り返って、年末年始の乗り越え方(SST)
- 2022年1月29日(土)  
オンラインミーティング、オンラインでホットケーキ、心のサイン
- 2月23日(水)  
お弁当注文(SST)、小さいころの私の夢
- 3月19日(土)  
開催予定

子どもたちの想いや考えを発信するプログラム

# ジュニアシティメーカー

子どもたちが地域の大人と対話しながら地元の農産物を用いて食べ物を作り、販売する活動を通して、自分の想いや考えを具現化し、自らが考え決める力を育む取り組みです。本年度は市立橋中学校2年生を中心に、地元の企業・店舗経営者の協力を得ながら体験学習を実施。企画開発した商品の販売までを行いました。



大牟田市立橋中学校 学年主任  
家永健二さん

Kenzo  
Tenaga

コロナ禍で30年近く取り組んでいた「職場体験」を実施する事が困難になりました。

そんなタイミングでの、JCM活動の提案。今まであった物ではなく、本当に0から新たに取り組む事に不安もありましたが、生徒に「働く」を伝えるために、学校としては、新たに変化が求められる局面でもあり、チャレンジすることに迷いました。そのため学校を開く事が大切で、そこには変化

を受け入れる勇気と協力し合える仲間の存在が必須だたと感じます。いざ協働していくと、学校としての地域を盛り上げたいという思い、地域が学校を支えたいという思いは、想像以上に強く、ビジョンを持つて本気で取り組む大人達や緒に悩み樂しまず姿は生徒達に大きな影響を与きました。

活動を通して見られた学年の変化として、人に関心を持ち接する姿や自分の気持ちを伝える姿、自分に何が出来るか考えて自発的に動く生徒が増えました。

マニュアル化されたもの

ではなく、見通しが不明瞭で不確実な中で、「共に作つていく」事で得られる学びや気づきは他では得られないものがありました。

これらの取り組みの持つている価値を、次世代に繋げ継続性を持たせる事が、いものを感じています。



大牟田商工会議所 総務課長  
山科敏彦さん

Toshihiko  
Yamashina

今回のJCMの取り組み、特に子どもの教育について、その必要性については十分共有出来ていたのですが、経済団体として十分に取り組めていない課題だと思つていました。この新しい取り組みを進めるうえで今回

のキーワードは「対話」と「共有」だったと感じています。商工会議所の中、地域の事業者たちとの間、そして子どもたちとの間で。自分たちに何ができるのか、いろんな人たちとの対話の先に自分たちのありの

重ねた先にいかないように思いました。



●2021年3月～4月  
事前ミーティング・中学校とのすり合わせ

●5月28日～6月9日  
総合的な学習授業内でのワーク・セミナー

●6月10日  
プレゼンテーション・審査・講評

●7月19日～8月31日  
吉野地区公民館での展示

●9月11日  
2nd Stage スタートアップミーティング

●9月16日～10月下旬  
オンラインを含むミーティングの実施

●11月13日・14日  
肉まつり@イオンモール大牟田での販売（完売）

●2022年1月22日  
大牟田駅西口で学校主体での販売を実施（完売）



職業  
ガイダンス

宮原中学校

(2021年10月25日)

宮原中学校におけるJCM活動では、10を超える職業の中から、自分の気になる職業を2つ選択し、その道のプロとの交流を図りました。「実際のところどんな仕事ですか?」「なぜその仕事に興味があるのですか?」「ぶっちゃけ年収ってどれくらいですか?」などなど、生徒の直線な疑問質問をしっかり受け止め対話を繰り広げてくださいました。仕事や働くことがリアルに身近になった生徒もいたようです。